

居場所づくりからの生活支援創出

小さな町なので資源（人材含め）は少ない。だからこそ、その貴重な資源を最大限に活かしながら少しずつ着実に推進していく。

（助け合い活動の創出）

①居場所・サロン・通いの場

『居場所づくりからの生活支援創出』

（宮崎県五ヶ瀬町）

現状

世帯数1,575戸 人口3,843人 高齢化率41.0% 75歳以上率23.9% 行政区14区
※3区には全寮制の県立中高一貫校生228世帯228人と特老入所24世帯24名も含む



①校区（1区）
210世帯 682人 高齢率43.1%
サロン4箇所

②校区（2区～5区）
779世帯 1585人 高齢率35.0%
サロン4箇所

③校区（6区～8区）
192世帯 579人 高齢率42.7%
サロン5箇所

④校区（9区～14区）
394世帯 997人 高齢率48.2%
サロン7箇所

集落内はほとんど顔見知り、以前は用が無くても出かけて行って話をしていた。集まりごとは多くて大変だったけど、世代を超えて話をする機会も多くて繋がりが強かったし頼み事もし易かった。でも、外で仕事をする人が多くなり、家でも忙しそうで、訪ねて行くのも迷惑になりそうだから行くことも減った。近所でも気軽に話すことも少なくなって、ちょっとしたことも頼みづらくなった。それでも、住民同士の繋がりはまだある。

繋がりが薄れたら大変。サロンに行かない人も、サロンが無い所もある。病気や認知症のリスクも高くなりそう。誰もが声をかけやすい日常にしよう！

①気軽に集まる場（機会）づくり

②情報発信

③仲間づくり

行動

①月1回の居場所づくり

既存の集まりを探す



他にも①～④校区に各1箇所あり（写真なし）。☺のみ常設で他は月1回。デイや集落でのサロンにも参加される。

②情報発信

*SC便りを作成し全世帯に配布



情報を見聞きして、集まりを希望される集落も出てきた。

③仲間づくり

*行政OB、保育士OB、看護師OB等に声をかける
*町のボランティア養成講座受講者に声をかける

志ある方方で任意団体を設立

・居場所運営と他居場所の支援

志ある方方でNPO法人を設立

- ・行政からSC業務を受託
- ・②校区居場所を常設型へ移行
- ・生活支援の仕組みづくり
- ・中高生とのワークショップ「あいであ広場」運営

これから

居場所立上げ支援

常設型居場所での生活支援の充実

ボランティア人材発掘

集落居場所への生活支援の拡大

情報共有・連携・勉強

行政・社会福祉協議会

町内の各事業所

町内の地域づくり組織

広域ネットワーク組織

（NPO法人結ネットたんぽぽ 生活支援コーディネーター 渡邊ユミ）



いきがい
助け合い